岐阜県文化財保護センター

研　究　紀　要

第　4　号

２０１８

岐阜県文化財保護センター

目　次

北方京永遺跡周辺採取資料の報告〈資料報告〉
・・・・・・・・・磯貝龍志、小林新平、山本厚美、長谷川幸志、加中雅章、笠井慎吾　1

北方京水遺跡周辺採取資料の報告＜資料報告＞

磯貝龍志、小林新平、山本厚美、長谷川幸志、加中雅章、笠井慎吾

はじめに

岐阜県文化財保護センターは、平成 29 年度に大垣市北方町に所在する北方京水遺跡の発掘調査を実施した。この際、近隣の住民の方から、遺跡の周辺で採取した遺物を借用した。本資料は古代～中世にかけての比較的残存状態が良く、今回の調査で得た成果と時期的に重なることから、当該地域の歴史的環境を知る上で貴重と考えた。本稿では、北方京水遺跡周辺採取資料について紹介し、当該地域の成り立ちを考える上での一助とする。

本稿の執筆は磯貝が担当し、瓦の記述についてのみ小林が行った[1)]。

1　北方京水遺跡周辺の地形と歴史的環境

北方京水遺跡は大垣市の北西部、揖斐川が形成した標高 9 m前後の沖積平野に立地する。近世には遺跡の南側を中山道が通っており、古代においても本遺跡の周辺に東山道の推定ルートが比定されている（神戸町 1969、大垣市教育委員会 1997）。また、遺跡の周辺は中世において美濃地域最大の伊勢神宮領である「中河御厨」に比定されている（神戸町 1969、大垣市教育委員会 1997）。本遺跡は、大垣市教育委員会が、平成 14 年度に特別養護老人施設建設（大垣市教育委員会 2004）、平成 22 年度には特別養護介護施設建設に伴い（大垣市教育委員会 2012）試掘・確認調査を実施した（表１・図１）。また、岐阜県文化財保護センターが、平成 25 年度に東海環状自動車道建設（岐阜県文化財保護センター 2015）、平成 29 年度に広域河川改修事業に伴って本発掘調査を実施した。いずれの調査でも、中世を中心とした遺構・遺物を確認している。平成 29 年度の調査では、当時の中州上に展開する集落跡を確認した。北方京水遺跡の周辺には、興福地村北遺跡や青木遺跡、興福地遺跡など古代～中世にかけての同時期の遺跡が点在している。興福地遺跡は、岐阜県文化財保護センターが平成 25 年度に東海環状自動車道建設に伴い本発掘調査を実施し、古代から中世にかけての遺物や掘立柱建物、井戸等の遺構を確認した。北方京水遺跡と同様の集落跡が、周辺に広がっている可能性が窺える。平成 29 年度発掘区の現況は水田であり、本資料の採取地も同様の耕作地と思われる。

表1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	北方京水遺跡	集落跡,水田	古代・中世
2	北方城跡	城館跡	中世
3	北方遺跡	散布地	古墳・古代・中世
4	北方次郎丸遺跡	散布地	古代・中世
5	曽根八千町遺跡	その他の遺跡	弥生～中世
6	曽根城跡・城下町	城館跡	中世
7	南方古鼓出土跡	散布地	中世
8	塚のこし古墳	古墳	古墳
9	青木遺跡	散布地	中世
10	中山道	その他の遺跡	近世
11	興福地村北遺跡	散布地	中世
12	池尻城跡	城館跡	中世
13	興福地遺跡	集落跡	古代・中世
14	興福地向田遺跡	散布地	古代・中世
15	塚越遺跡	散布地	古墳
16	西之川遺跡	散布地	弥生・古墳・古代
17	領家遺跡	散布地	古代・中世
18	一里塚跡	その他の遺跡	近世

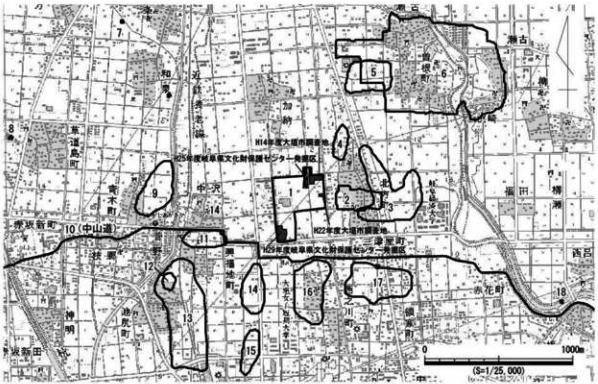

図１　周辺遺跡位置図　（国土地理院発行1:25,000地形図「大垣」使用）

２　採取資料について

本資料は須恵器、中世陶磁器（山茶碗、常滑産陶器、中国産磁器）、土師器、瓦質土器、土製品である。今回確認した資料の破片数は表２に示した。このうち、残存状況が良好なものを抽出して図示した（図２～４、表３～６）。なお、部位名称や時期比定については既存の研究に従って記載し、参考にした文献は文末に一括して記載した。ただし、文責は筆者にある。

１～12 は須恵器である。いずれも色調や胎土から美濃須衛窯産であり、おおよそ美濃須衛窯Ⅳ期からⅥ期にかけての資料が中心と考えられる（各務原市教育委員会 1984）。１～３は坏蓋である。１・２は口縁部の破片である。いずれも口縁部端部を内側に折り返す。３は天井部の破片で、頂部に扁平な擬宝珠状のつまみを有する。頂部内面にはつまみを接着する際に指で押さえた痕とそれをナデ消した痕跡が認められる。４は有台坏身である。底部外面に回転ヘラケズリを施し、その上に高台を貼り付ける。底部内面は使用による摩滅がみられる。５は体部下半が丸みをおびて立ち上がることから、埦と考えられる。６は把手部分の破片である。美濃須衛窯では把手をつけた盤や甕などの器種がみられ、それらの把手の可能性がある。７は瓶類口縁部の可能性がある。８～12 は甕の破片である。８は肩部～口頸部にかけての破片で、外反して立ち上がる。９は肩部から口頸部にかけての破片であるが、口頸部は接合部からほとんどが脱落している。10～12 は胴部の破片である。

表２　北方京水遺跡周辺採取資料一覧

種別	土師器		須恵器					山茶碗		常滑産陶器	中国産磁器	瓦質土器	土製品		
器種	皿	不明	坏蓋	坏身	埦	甕	不明	碗	皿	甕	椀・皿	鍋	瓦	土錘	不明
破片数	2	7	11	8	1	19	2	35	3	2	4	1	2	16	1
合計	9						41	38		2	4	1			19

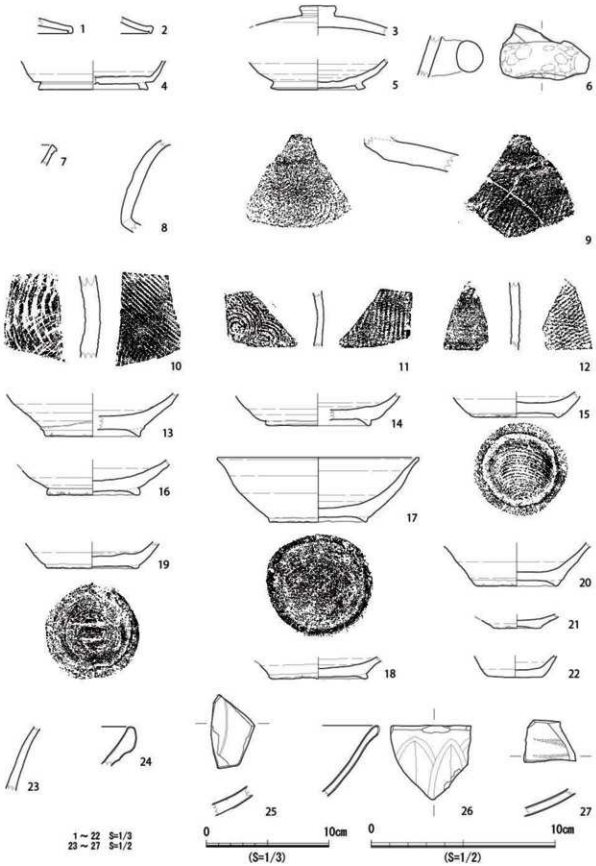

図２　北方京水遺跡周辺採取資料１

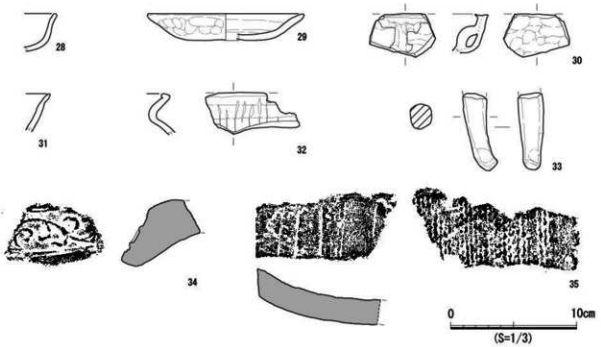

図３　北方京水遺跡周辺採取資料２

13～22 は山茶碗でいずれも尾張型であろう。尾張型山茶碗第４～７型式までのものがみられ、第５～６型式のものが中心である（藤澤 1994）。13～20 は碗である。13 は体部下方が残存しており、やや丸みを帯びて立ち上がる。高台は逆三角形でわずかに籾殻圧痕があり、高台を接合した際の粘土の接合痕が体部外面に明瞭に認められる。14 は全体的に作りが丁寧であり、確認できる範囲では高台に籾殻圧痕が全くみられない。15・16 の底部内面中央には回転ナデで生じた高まりが認められる。底部内面は使用により摩滅する。また、16 の底部内面には重ね焼き時に付着した別個体の高台の一部が認められ、それよりも外側に自然釉がみられる。17 は高台から口縁端部まで残存するもので体部下方は丸みを帯び、体部上方は直線的に立ち上がる。18 の体部下方は丸みを帯びて立ち上がる。19 は底部内面と体部内面の境に明瞭な浅い回みがみられる。20 は粗雑な作りで、体部はほぼ直線的に立ち上がる。21・22 は小皿である。21 は欠損が激しく立ち上がりは不明である。22 の体部はほぼ直線的に立ち上がる。

23 は常滑産陶器で甕の口頸部の破片である。

24～27 は中国産磁器で、太宰府市教育委員会が行った編年のＣ～Ｆ期にあたるものである（太宰府市教育委員会 2000）。24 と 25 は白磁である。24 は白磁の椀で、口縁は厚みのある玉縁である。25 は体部内面を一周すると思われる沈線がみられることや体部外面下方には露胎が認められることから、椀もしくは皿の底部付近の破片であろう。26 と 27 は青磁である。26 は龍泉窯系の椀で、外面に鎬蓮弁文がみられる。27 は同安窯系の青磁である。内面には櫛点描文が認められる。

表３　土器観察表（１）

掲載番号	種別	器種	口径/底径/器高(cm)	胎土(単位:mm)	焼成	色調(内面/外面)(断面)	器面調整 内面/外面	分類・時期	備考	掲図番号
1	須恵器	坏蓋	-/-/(1.3)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を少量含む）	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	美濃須衡窯Ⅳ～Ⅴ		1
2	須恵器	坏蓋	-/-/(1.4)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	5Y5/1 5Y5/1 5Y5/1	回転ナデ/回転ナデ	美濃須衡窯Ⅳ～Ⅴ		1
3	須恵器	坏蓋	-/-/(2.5)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	2.5Y7/2 2.5Y7/1 2.5Y7/2	回転ナデ/回転ヘラケズリ	美濃須衡窯Ⅳ～Ⅴ	ロクロ回転右	1
4	須恵器	有台坏身	-/(6.8)/(2.4)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	2.5B6/1 2.5Y5/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	美濃須衡窯Ⅳ～Ⅴ	ロクロ回転右	1
5	須恵器	?	-/(6.6)/(2.5)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を少量含む）	良好	2.5B6/1 2.5B6/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	美濃須衡窯Ⅴ	体部内面に自然釉付着、ロクロ回転右	1
6	須恵器	不明	-/-/(1.7)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を少量含む）	不良	5YR6/1 5YR6/1 5YR6/1	指頭圧痕/回転ナデ			1
7	須恵器	瓶類か	-/-/(1.8)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ			1
8	須恵器	甕	-/-/(7.6)	密（φ2以下の長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ			1
9	須恵器	甕	-/-/(2.8)	密（φ2以下の長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5B6/1 2.5Y7/1	回転ナデ、疑斜格子タタキ/回転ナデ、同心円当具痕			1
10	須恵器	甕	-/-/(6.9)	密（φ2以下の長石等砂粒を含む）	良好	2.5B6/1 2.5B6/1 2.5B6/1	疑斜格子タタキ/同心円当具痕			1
11	須恵器	甕	-/-/(4.6)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	疑格子タタキ/同心円当具痕			1
12	須恵器	甕	-/-/(5.5)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を少量含む）	良好	5YR6/1 5YR6/1 5YR6/1	疑斜格子タタキ/同心円当具痕			1
13	山茶碗	椀	-/(7.7)/(3.4)	密（φ1以下の長石等砂粒を含む）	良好	5YR6/1 5YR6/1 5YR6/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗4	内面に自然釉付着、回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
14	山茶碗	椀	-/(8.1)/(2.7)	密（φ1以下の長石等砂粒を少量含む）	良好	10YR5/3 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗4	全体に鉄分沈着、回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
15	山茶碗	椀	-/6.7/(2.1)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	内面に自然釉付着、回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
16	山茶碗	椀	-/6.8/(2.9)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5B6/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	内面に自然釉付着、回転糸切り痕あり、内面摩滅、底部外面に墨痕あり	1
17	山茶碗	椀	(16.4)/(7.8)/5.3	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	内面、口縁端部に自然釉付着、回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
18	山茶碗	椀	-/7.5/(1.8)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	内面に自然釉付着、回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
19	山茶碗	椀	-/7/(2.2)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5B6/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗6	底部切り離し後板目状圧痕、内面摩滅	1
20	山茶碗	椀	-/(6.4)/(3.5)	粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗6	回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
21	山茶碗	小皿	-/7/(2.2)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
22	山茶碗	小皿	-/3/(1.3)	やや粗（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	5YR6/1 5YR6/1 5YR6/1	回転ナデ/回転ナデ	尾張型山茶碗5	内面に自然釉付着、着回転糸切り痕あり、内面摩滅	1
23	常滑焼	甕	-/-/(5.3)	密（φ2以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	5YR6/1 5Y5/2 5YR6/1	回転ナデ/回転ナデ	不明	内面に自然釉付着、外面施釉	1
24	白磁	椀	-/-/(2.1)	密	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y8/1	回転ナデ/回転ナデ	太宰府市教育委員会C期		1
25	白磁	椀か皿	-/-/(1.6)	密	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y8/1	回転ナデ/回転ナデ		外面に露胎あり	1

法量で（）のつくものは残存高、復元径

表４　土器観察表（２）

掲載番号	種別	器種	口径/底径/器高(cm)	胎土（単位:mm）	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	分類・時期	備考	挿図番号
26	青磁	椀	-/-/(3.8)	密	良好	7.5Y6/2 7.5Y6/2 5Y7/1	回転ナデ/回転ナデ	大宰府市教育委員会E～F期		1
27	青磁	椀か皿	-/-/(1.6)	密	良好	5Y6/2 5Y6/2 5Y8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ			1
28	土師器	土師器皿	-/-/(3)	密（φ1以下の石英等砂粒を含む）	良好	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/4	横ナデ/横ナデ	小野木2a類		2
29	土師器	土師器皿	(12.3)/(17.9)/2.2	密	良好	2.5YR8/2 2.5YR8/2 2.5YR8/2	横ナデ、指オサエ/横ナデ	井川B１類		2
30	土師器	焙烙鍋	-/-/(3.1)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	良好	7.5YR7/3 7.5YR7/3 7.5YR7/3	横ナデ、指オサエ/横ナデ、指オサエ			2
31	土師器	鉢か	-/-/(3.1)	密（φ1以下の雲母・長石等砂粒を含む）	不良	7.5YR7/4 7.5YR5/2 7.5YR7/4	横ナデ/横ナデ		内外面に粘土接合痕認められる	2
32	土師器	鍋か甑	-/-/(3.25)	密（φ1以下の長石等砂粒を含む）	良好	2.5YR8/1 2.5YR8/1 2.5YR8/1	横ナデ/横ナデ、ハケメ			2
33	瓦質土器	足鍋	-/-/(6.2)	密（φ1以下の石英、長石等砂粒を含む）	不良	2.5YR8/1 2.5YR8/1 2.5YR8/1	指オサエ			2

法量で（）のつくものは残存高、復元径

表５　瓦観察表

掲載番号	器種	縦幅/横幅/厚さ(cm)	重さ(g)	胎土（単位:mm）	焼成	色調	調整 凸面/凹面	分類・時期	備考	挿図番号
34	軒平瓦	(4.5)/(7.5)/(4.8)	180.4	密（φ5以下の石英等砂粒を含む）	良好	5Y5/1	不明/指ナデ		忍冬文、曲線型	2
35	平瓦	(6.5)/(11)/(2)	176.2	密（φ2以下の石英等砂粒を含む）	不良	5YR6/2	縦位縄叩き/格子目・布目痕			2

法量で（）のつくものは残存幅、残存高

表６　土錘観察表

掲載番号	器種	長さ/幅/孔径(cm)	重さ(g)	胎土（単位:mm）	焼成	色調	調整	分類・時期	備考	挿図番号
36	管状土錘	5.2/2.2/1	23.3	密（φ1以下の長石等砂粒を含む）	不良	2.5YR6/2	指オサエ			2
37	管状土錘	4.7/0.9/0.25	3.5	密（φ1以下の石英等砂粒を含む）	良好	7.5YR7/6	指オサエ		孔内に擦痕あり、黒斑あり	2
38	管状土錘	4/1.1/0.35	10.9	密（φ2以下の長石等砂粒を含む）	不良	2.5YR7/2	指オサエ			2
39	管状土錘	3.1/3.1/0.35	5	密（φ1以下の長石等砂粒を含む）	良好	2.5Y6/1	指オサエ		黒斑あり	2

法量で（）のつくものは残存高、復元径

28～32は土師器である。28・29は皿である。28は立ち上がりがきつく、口縁部はやや外反する。大きさは不明であるが、１段ナデで褐色を呈するため小野木氏の２ａ類であろう（小野木 1997）。29は体部外面に指頭圧痕が認められ、連続的に右回りに押さえたことが分かる。体部が外反し、井川氏のＢ１類であろう（井川 1997）。30は体部内面に耳が認められる。内外面に耳を指で貼り付けた痕が残る。残存する破片から器高は低いとみられ、焙烙鍋の可能性がある。31は口縁部付近の破片で鉢の可能性がある。32は鍋若しくは甕で、口縁端部を内側に折り返す。頸部にはハケメ調整の際にあたったと思われる工具の圧痕が認められる。

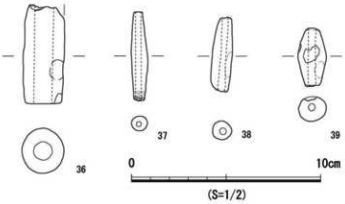

図４　北方京水遺跡周辺採取資料３

33 は瓦質土器である。上部を欠損しており、全体の形態は不明であるが、足鍋の脚部であろう。詳細な時期は不明であるが中世の遺物である。34～39 は土製品である。34・35 は瓦である。34 は軒平瓦の瓦当部で、文様は唐草文であるが、中心葉は確認できない。外区は無文で、笵端と推測される段が残る。顎部形状は曲線顎で、瓦当面と平瓦凹面のなす角度は鈍角となる。瓦当部と平瓦部は共土により成形される。また、瓦当面と顎部の境は横方向にケズリ調整する。35 は平瓦である。凸面は縦位縄叩きで、叩き目をそのまま残している。凹面は布目痕が残るほか、模骨痕が確認できる。側面はヘラケズリにより、凹面に対して鋭角に成形されている。模骨痕の存在から桶巻作りの可能性もあるが、縦位縄叩きや側面の観察から一枚作りの可能性が高い。36～39 はいずれも管状土錘である。36 と 37 は両端が平坦になるように整えられているのに対し、38 と 39 は未処理である。

おわりに

本資料は、おおよそ８世紀～15 世紀にかけてのものであり、資料が集中する時期は大きく２時期に分けられる。１つ目の時期は、８世紀～９世紀で、須恵器が主体を成す。２つ目の時期は 12 世紀後半～13 世紀前半で、山茶碗が主体を成す。中国磁器についても 12 世紀後半～14 世紀初頭のものでほぼ同時期の遺物である。また、29 の土師器皿も尾張型山茶碗第５・６型式に併行するものである。２つ目の時期と併行する時期の遺物はこれまでの調査でも多数確認されており、本資料においても中心を占め、バラエティーにも富む。北方京水遺跡と同様の集落跡が周辺にも展開していた可能性を示すと考えられる。

また、２点と数が少ないものの、瓦が採取されている点は注目される。資料を採取した地域の周辺に街道が通っていたという点をふまえると、古代から中世に官衙や社寺といった施設が存在した可能性が示唆される。美濃地域における唐草文軒平瓦は不破関や美濃国府、美濃国分寺等から出土している。しかし、いずれも外区に珠文帯を有しており、本報告における唐草文軒平瓦とは異なる文様である。類例の発見により、詳細が明らかになることを期待したい。

平成 29 年度に発掘調査を実施した北方京水遺跡の整理等作業を進めていく中で、本資料から得られた情報や、発掘調査の成果からこの地域の歴史をさらに明らかにしていきたい。

注

1）図化・トレース作業は山本、長谷川、加中、笠井、小林、磯貝が行った。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、資料の公表を許可していただいた所有者の方には大変お世話になった。記して感謝申し上げたい。

〈引用・参考文献〉

愛知県 2007『愛知県史　別冊　窯業２　中世・近世　瀬戸系』

井川祥子 1997「15 世紀後半～16 世紀前葉の土師器皿―中濃地域を中心として―」『美濃の考古学』２、美濃の考古学刊行会

大垣市 2011『大垣市史　考古編』

大垣市教育委員会 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書―解説編―』(大垣市埋蔵文化財調査報告書第５集)

大垣市教育委員会 2004『大垣市埋蔵文化財調査概要　平成 14 年度』(大垣市文化財調査報告書第 41 集)

大垣市教育委員会 2012『大垣市埋蔵文化財調査概要　平成 22 年度』(大垣市文化財調査報告書第 49 集)

小野木学 1997「美濃地方における中世前期の土師器皿の様相」『美濃の考古学』２

各務原市教育委員会 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』(各務原市資料調査報告書第４号)

角田文衛 1994『平安京提要』

岐阜県文化財保護センター2015『興福地遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書　第 132 集)

岐阜県文化財保護センター2015『北方京水遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書　第 133 集)

岐阜市教育委員会 1981『老洞古窯跡発掘調査報告書』

神戸町 1969『神戸町史　上巻』

財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター1997『下野国分寺ＸⅡ（瓦・本文編）』(栃木県埋蔵文化財報告書第 169 集)

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』(太宰府市の文化財　第 49 集)

東海埋蔵文化財研究会 1992『古代仏教東へ―寺と窯―　１．寺院編』(第９回東海埋蔵文化財研究会　資料集１)

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県文化財保護センター研究紀要』第３号

岐阜県文化財保護センター

研　究　紀　要

第４号

２０１８年7月３１日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東 1-26-1